

SDGs 達成に向けた取組み

再生可能エネルギーへの置き換えと車両のEV化・HV化の推進



目的・背景

当社のような中小企業では、SDGs や環境問題に対する投資は二の次で生産性や費用対効果を重視することが当たり前でした。しかし、企業として環境問題に取り組まなければならないと感じるようになり、既実践している大手企業などをお手本に当社ができる小さなことから活動を始めるようになりました。

具体的な取組内容

令和 5 年 5 月に箕浦事業所に売電等を目的としたものではなく、再生可能エネルギーとして 100%自社で使用することを目的とした太陽光発電設備を設置しました。現段階で消費電力の約 35%ほどを再生エネルギーに置き換えることができました。最初は小規模で設置し効果を検証して、今後は再生可能エネルギー 100%の事業所を目指し、電力購入が限りなく 0 になるように追加投資や新たな方法を検討していきます。

また、ガソリン車の社用車やディーゼルのトラック、フォークリフト等の CO₂ 排出量の多い車両を HV 車や EV 車への置き換えに取り組んでいます。本社の社用車も HV 車に置き換えが完了しており、新たに令和 6 年 2 月頃 PHEV 車も導入予定です。フォークリフトはディーゼルタイプのものが 8 割強の割合を占めているので、2050 年までに EV 化を目指し取り組んでいきます。これまで導入実績のなかった尼崎事業所も環境に配慮し、従来のディーゼルタイプのフォークリフトより金額が 1.5 倍ほど高い最新のハイキャパシティ使用のバッテリーフォークリフトに令和 6 年 3 月置き換える予定です。

今後も環境改善に関する投資を積極的に行っていきます。



HV 社用車



バッテリーフォークリフト



太陽光発電

成果

自社使用の太陽光パネルの設置や社用車やフォークリフトを EV 化・HV 化することで、目に見える環境対策への投資が社員のモチベーションアップ・意識の向上や社外へのイメージアップ等、良い影響を与えています。

それ以外にも太陽光パネルの設置で消費電力を削減できたためコストダウンにもつながりました。

また社員の意識の向上がエコドライブの実施や分別等、良い循環になっています。

担当者の思い

SDGs に取り組み始めて 3 年目になりました。最初は何から手を付けて良いかも分からず、大手の真似をしようとしても規模感のギャップがあり、実行には進めませんでした。ですが自分たちができることは何かを考え、小さなことから取り組んで行くことで段々と成果が出てきたと感じます。環境対策への意識や投資は大手企業だけのものではなく、中小企業でもやればできると実感しています。

〈取締役 尼崎事業所長 藤川 功基〉

